NIE実践報告

1．タイトル：新聞で変えよう！新聞勉強法のすすめ！

2．学校名

兵庫県立飾磨工業高校（全日制）

3．実践者名（代表者名）

佐々木　浩二

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代社会　194人

6．単元（本時の学習課題）名

どんな不況でも個人が生き残るにはどうすべきかを考える

7．目標(狙い)

不況で企業が生き残るためのリストラを行っている中で、個人が生き残るために必要な能力を考える

8．評価の視点

班別活動で自分の意見を主張しながら、他人の意見を認め、よりよい解決策が探れるか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

労働問題（3年生最後の授業）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1．企業が生き残ることと個人が生き残ることは不況下では両立しにくいことに触れる。
2．不況をなくすことは出来ないことに触れる。生徒が定年まで働くことを前提に、約40年間で不況は何回くるのかを予想させる。不況で企業が倒産しても、自分や自分の家族を守り抜く必要があること に気づかせる。
3．不況を恐れず、不況を乗り切るための方法を４～６人の班で模造紙に書き出す班別作業を行う。
4．約20分間で班別学習をして出された解決策を発表させる。他の班の内容を見学させる。
5．教師側から解決策のヒントを出す。模造紙に書き出された解答は、どんな場所でも通用しますか。
どんな時代・年齢でも通用しますか。模造紙に書き出した解答に「×」や「〇」を入れる。
6．模造紙に残ったもの意外に、「問題解決能力」が必要であることを述べる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

最後に答えを言わないで、今後興味を持った人は、ネットで「問題解決能力」を検索して、本や人物を探し出して、自分の人生を切り開くように指導して授業を終わった。

12．成果と課題

「教えられる量」には限界がある。高校3年生は卒業後、自らが「学んでいく量」を増やしていかなければならないことを教えたかった。誰かから教えてもらうという姿勢では、人生は切り開けないことを教え、仲間や家族と共に協力して解決していこうとすることの大切さを気付かせる授業ができた。